

学校だより 2023 Smile 本荘

令和5年度 第42号
 令和6年2月14日
 熊本市立本荘小学校
 校長 西川 英臣

【1月の本荘小】給食記念週間でした。お弁当の日では「ありがたみと感謝の気持ち」を考えました。



委員会による給食記念週間の発表



子どもたちのお弁当その1



6年生はもりもり食べていました



子どもたちのお弁当その2 お魚メインのお弁当が多かったです



なかよしさんが作った好きなメニュー



4年生もうれしそうに食べていました

1月24日から、給食記念週間がスタートしました。お昼の放送で、私からも以下のお話をしています。

お昼の放送 校長先生のお話

今日から給食週間です。皆さんは毎日、学校で当たり前のように食べていますが、今から約130年前、山形県の小学校で貧しくてお弁当を持ってこれない子どもたちがいて、その小学校を建てたお坊さんが、その子らのためにおにぎりや焼き魚、漬け物などのお昼ごはんを出したのが、給食の始まりだと言われています。その後、戦争があつてしばらく給食がストップしましたが、戦後は、アメリカからの援助で再び学校給食が始まったのです。この給食が再開されたことを記念して、毎年給食週間が行われているのです。

校長先生の小学校の頃の給食は、今からおよそ50年前ですが、毎日コッペパンか食パン、そして、スパゲティミートソースやカレーシチューなどの主菜、牛乳でした。まだガラス瓶の牛乳でした。食器は、今のようなポリカーボネートの食器ではなく、金属製のもので、お汁が熱いと持てなかったと記憶しています。校長先生は、パン、牛乳、イチゴジャム、肉うどんというメニューが大好きで、いつも楽しみにしていました。もう少し年上の先輩たちの時は、脱脂粉乳という赤ちゃんが飲む粉ミルクのようなものを、牛乳の代わりに飲んでいたので、ご飯は、全くありませんでした。麺類はうどんか、スパゲティかタイピーエンだったように覚えています。とにかくメニューが多くなかったのです。

ところが今は 違いますね。毎日が御飯の給食で、パンの日が週2回ほどでしょうか。おかずもいろいろなバリエーションに富んで栄養満点です。そのような給食ですが、今も昔も変わらないものがあるのを知っていますか。それは、毎日、給食室の先生方が愛情をこめて一生懸命作ってくださっていることです。そして、その献立も、みんなが元気で過ごせるように、栄養バランスを考えながら作られているということです。これは、本当に感謝しなければなりません。

(裏面に続きます)

そのような、作ってくださる方々の調理員さんや栄養士さんの気持ちに答えるために、皆さんがしなければならないことは何でしょう。それは、できるだけ給食を残さず食べるということではないでしょうか。食べてアレルギーの出る人は別ですが、そのアレルギーにも対応して、代替りの食材をつくっておられますので、好き嫌いだけで残すことのないようにすることが大切です。この給食週間、いつも以上に、作ってくださる方への感謝と食べ物への命をいただいているという気持ちをもって給食をいただってください。

現代では、給食の「ありがたみ」を私のような世代が伝えないと、その大切さが風化してしまう傾向にあるような気がします。そこで、1月29日をお弁当の日にしてみました。給食1食分の値段は243円です。長いこと変わっていません。この物価高でも変わっていません。この243円という低価格で、子どもたちの栄養を考え、かつ美味しく、夢がある食事を提供しているのです。この243円を意識したお弁当を各ご家庭にお願いしたのです。子どもたちは、自分で作ったり詰めたりしたという意見が多かったですね。給食を自分事として考えるよい機会になったのではないかと感じている校長先生です。(校長)

校長先生の虫眼鏡 「いやー、寒かった寒かった。懐かしいくらい」

給食記念週間の時期は、寒い日が続きました。あたたかい給食っていいなって思いました。子どもたちも同じです。



朝から雪でしたが、子どもたちは元気です。



運動場も真っ白この日は寒い寒い



小さいけれど雪だるまも作ってみました。



雪の日でもジャンプボードの周辺は人気でした。